

第5回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 平成31年1月28日（月） 10:00～12:05

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第4会議室

3 出席者

(1) 委 員 中川委員長、下澤委員、佐々木委員、藤田委員、有田委員、池井委員、鈴木委員（順不同）7名出席

(2) 鳥取市 （協働推進課）宮崎課長補佐、平野主事、清水主事、北村主事

4 議 事

(1) 報告事項

地域組織のあり方検討の取組状況について

(事務局)

【資料1～4】説明

(委員)

委託費と補助金の違いは何か。

(事務局)

委託費は、本来市がすべきことを誰かにお願いするもの。補助金は行政が促進、支援したいことについて手助けするというイメージ。

(委員)

紐付きの度合いの大きさの違いということか。

(事務局)

補助金の方が裁量はあるが、目的から外れたことには使えないし、用途は市が把握している。

公民館長会では、資金の一本化はいいが総額を減らすようなことはやめてほしい、一括交付金の自由度を高めてほしい、公民館職員の負担が減る制度にしてほしい、との意見があった。

(委員)

公民館職員は現状、定数に足りているのか。

(事務局)

一部足りていない。

(委員)

なりたい人がいないという状況か。要は生活できるほど給与が出てないのが現状。副業も認めるなどいろいろやった方がいいと思う。

また、職員の任命についても1人に対して教育委員会と市長部局から2つ辞令が出ている。そのあたりがあいまいなので一本化できればと思う。

(委員)

公民館運営の財源について、地方交付税が来ているとは思いますが、市長部局にも来ているのか。それとも教育委員会の予算で持たざるを得ないのか。

医療施設だと、時給1000円くらい出さないと集まってこない。公民館は市にとっても重要な施設。市の職員も核となる公民館には配置する必要があるのでは。市が公民館に対して好きにきなさいと言いながら、コントロールしたがるのには矛盾がある。

(事務局)

職員の時給は1000円以上はあるが、月の報酬にすると13、14万円となり、生活給としては厳しいところがあると感じている。今は研修を充実させ、地域を引っ張る存在になってほしいと考えている。職員の配置についての議論は将来起こるかもしれないが、いずれにしても地域の最前線に立つ公民館職員の資質の向上が必要と考える。

(委員)

市で適正に公民館の仕事内容を査定すべきと思う。地区によって人口が違うのに同じ職員数と運営費では平等ではない。市で査定していただき、適正な人員・経済支援等をあわせて検討すべき。職員の負担を減らすなら全体の仕事量も並行して考えないといけない。市、公民館職員がすべき仕事を明確にしないと持続可能な地域の継続が困難になる。

また、資金の一本化に至るまでのロードマップを明確にしてほしい。横の連携を密にしてコーディネーター機能を持たせるのがまちづくり協議会の主なねらいと思う。まちづくり協議会の重要性が地域にしっかり周知されてから一本化

していくべきだと思う。

(委員長)

これは職員課に確認してもらいたいですが、採用ができてないという現状をリアルに考えてもらわないと困るということがある。いよいよ人が集まらない時には正規職員を公民館に入れる覚悟があつて、その金額設定をしているのか、を考えていかないといけない。副業もできないとなると地域も職員になってほしいとお願いもできない。

(委員)

他の自治体では、市職員がコミュニティセンター長として派遣されているところもある。中学校単位でコミュニティセンターを作ってそこに1人派遣している市もある。

(委員)

公民館問題は地方創生の基本と思う。予算が足りなければ県を通してでも国に強く言っていくべき。国もそういう情報が欲しいと思う。町内会加入率が下がっていることにも国は危機感を持っている。そういうことも鳥取の現実として上げてほしい。

(委員長)

これは本質的な話なので、答申にも盛り込みたい。

(2) 協議事項

市民自治推進委員会意見書について

項目1 市民自治推進委員会の活動を振り返って

(委員)

もっと積極的な意見にするタイトルにできないか。例えば「鳥取市の自治推進について」などとし、感じたこと、提言等を入れてはどうか。

項目2 市民まちづくり提案事業の審査を行って

(委員長)

申込みが少ないことについての工夫が必要かもしれない。

行政提案型事業については、NPO側と行政側が一緒にこれをやろう、という形ではなく、行政がNPO側に持ちかけている。例えば、一緒に調査をするなど、何のためにやるのか、地域のだれが困っているのか該当団体と調べるといったニュアンスにすれば、翌年の施策にするとときに次につなげやすい。

(事務局)

協働部門についてはこれまでその年度になって担当課に声かけしていたが、来年度からもっと早い段階で周知するようにした。予算化の前にも委員会にも情報提供するなどして、テーマ設定ややり方等は相談させていただきたい。

(委員)

いい事業もたくさんあったが、補助金をもらうだけの事業になっている。事業のその後がどうなったかの報告も教えてほしい。

項目3 市民活動表彰の審査を行って

(委員長)

これも団体数が減っている。1度受賞したらもう表彰されない。これまで50団体ほど表彰されており、市民活動センターに登録されている団体にはあらかた声がかかっているのでは。

(委員)

1回推薦されたとしても、それが10年前の話で、今も活動継続しているなら取り上げてもいいのではないか。

(委員長)

活動の質が変わっている可能性もある。被表彰者の決定についての工夫をしてほしい。市民活動センターに関わっている団体の更新がどれくらいできているのか、新しい人がどんどん入っているのかといった辺りは重要なポイントと思う。若手のグループや、退職して新しいグループを作られている方も一定数いるのでそこが押さえられているのか。

(委員)

どんどん表彰したらいいと思う。励みになるし案外そういう機会はない。10年程度続けたら再度推薦できるようにしてはどうか。

(委員長)

知ってもらえる機会を工夫して、表彰されたいと思う賞になればいい。

項目4 参画と協働のまちづくりフォーラムを開催して

(委員)

フォーラムは委員長のコーディネーターもよかったし、講師がいい話をされていた。フォーラムでは我々を含め、参加者が問題点を意識できた。豊岡市との違いも分かった。豊岡市は一本化してスタートしたというのが大きな違いと思う。田中会長から一本化について市長へ質問され、市長からも前向きな発言があったことが良かった。豊岡市のように反対を恐れずにする、鳥取市ではそれができていなかったから今になっていると思う。職員の給料は大事だが、単純に上げるだけでは市の財政がもたなくなる。今後、公民館を再編するなど、支所を含めてトータルで考えないといけないと思う。市にはそのあたりをやっていただきたい。

(事務局)

今のご意見は項目1にあたる部分だろうか。

(委員)

そうかもしれないが、きっかけはフォーラムである。

(委員長)

フォーラムについては、市長に意見を言える場があったのはよかったということと、2年に1回と回数をしばってやったのでよかったということか。

項目5 地域組織のあり方検討について (1) 地域の現状

(委員長)

職員の待遇改善は盛り込む。

(委員)

地域のなり手不足について、今は65歳、70歳になっても仕事をしている。地域デビューする人が高齢化している。有職者の年齢が高くなっている、これが要因ではないか。有職者でも地域貢献ができるような仕組みが必要と思う。以前はPTA役員で地域デビューするという流れができていた。

(委員)

地域の役員をやれば給与を上げる、または有休を取りやすくするといった呼びかけをしてみてもどうか。

(委員)

民間ではそういったことが通りにくい。行政で働きかけをしてみてもどうか。

(事務局)

市ではボランティア休暇という制度はある。

(委員)

まちづくり協議会の会議などは夜が多く、公民館職員にとっては時間外勤務になる。残業代はでないのかという声を聞く。市が出せなければ地域で出すということになるのか。

(事務局)

ローテーションを組んで、と言っているが、夜間に開催される会議の多くは時間外勤務としている。ただ、いろんな形の会議があり、状況によると思う。

(委員長)

豊岡市では、参加者に議事録を取ってもらうように研修を行い、フォーマットを作ったりしている。事務局がいなくても会議ができるような運営方法等についても研修している。全部事務局がやると回らなくなるので、そもそもの運用を柔軟にしましょうという話も大事だと思う。

(委員)

公民館が地区の団体の会計をしていたが、今はやめているか。

(事務局)

会計の不正が過去にあったことから、職員が他団体の会計を取り扱わないような方針で進めている。どうしても会計の外部化ができないときは、職員が行っている会計事務に対し、検査をすることとしている。

(委員)

地域貢献したら市で表彰したり、企業に知らせてはどうか。スポーツの指導者

も対象にする。行政として地域に出やすいように働きかけてはと思う。

(委員)

会社として何かメリットがあれば企業もやると思う。

(委員)

私の所属している組織では、地域活動への参加についてダメとは言わないが、やれとも言わない。早く帰ったからといって評価が下がるわけではないが、奨励はしていない。

(委員)

地域ではいろんな人がいるから、参加するといろいろな力がつくと思う。そこを評価してもらえるようにすればいい。

項目5 地域組織のあり方検討について (2) 取り組み

(委員長)

フィールドワークが中心となるので、そこで出た意見を入れてはどうか。

(委員)

まちづくり協議会立ち上げに伴ってプランを作ったが、それだけで息切れしてしまう。まちづくりを考えるのであれば、プランをもう一度見直して原点に帰ってはどうか。

(事務局)

当時、コミュニティ計画と支援制度について更新がはっきりしていなかった。主体性を持っていただくという意味でプランを再更新する仕組みが必要かと思っている。

項目5 地域組織のあり方検討について (3) 今後

(委員長)

今のままでいいというところはそのままで、変えたいというところは選んでいける仕組みにしていけばいい。それを踏まえてモデル地区として手を挙げてほしい。

(委員)

話は変わるが、委員会の構成について、次の委員は出てこれる人を選ぶこと。形だけにしないようにお願いしたい。

(委員)

大学の先生を入れるにしても、町内会に入って活動しているような方がおられたらいい。

(委員)

鳥取市には環境大学もある。地域づくりに関わっている先生もおられると思う。